

令和5年度光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和6年2月8日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会 教育長 伊藤 幸子

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 平岡 いづみ

〃 教育委員 武田 伸治

〃 教育委員 岩佐 光恵

(2) 説明員

教育総務課やまと学園推進係長 桑原 裕弥

(3) 関係者

升教育部長、吉永教育総務課長、原田学校教育課長兼部活動改革推進室長、田中学校教育課主幹、国広文化・社会教育課長兼人権教育課長、三好スポーツ推進課長、眞嶋図書館長、高橋学校給食センター所長、秋友教育総務課経理係長、奥屋教育開発研究所主任研究員、永光教育企画員（学校教育課）、佐々木教育企画員（学校教育課）

4 傍聴者

4名

5 次第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

光市の小中一貫教育の取組と施設一体型小中一貫やまと学園の今後について

閉 会

6 議事録（要旨）

開 会

（1）市長あいさつ

それでは、会議の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

皆様方におかれましては、平素から本市教育行政の推進にご尽力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、本日はお寒いなか、光市総合教育会議にご出席を頂きありがとうございます。

本会議では、本市の教育の在り方や進むべき方向性について、これまでも教育委員の皆様とともに、様々な視点から協議を重ねてまいりました。今年度は、本市の小中一貫教育の取組と施設一体型小中一貫やまと学園の今後について、皆様とともに議論を深めてまいりたいと考えております。

本市では、令和2年度から市内の全ての中学校区ごとに、義務教育9年間を前期、中期、後期の3つのステップで捉えた上で、つながりを重視した教育活動を展開し、学校・家庭・地域が目指す方向を共有しながら、子どもたちの学びと育ちを見守り、支援する、小中一貫教育の取組を開始しております。

令和4年度からは、小中一貫教育の教育効果を更に高めるため、小・中学校の施設が同一敷地内で接続または一つに合体した、施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に向けた取組を進めているところであります。この中で、やまと学園においては、4つの小学校の先行再編が決定し、令和7年度から大和小学校が新たに歩み始めることとなります。

また、令和10年度頃を目途に、施設一体型小中一貫やまと学園の新設を目指すこれらの取組は、本市の学校教育が踏み出す新たな一歩であり、今後続く他のひかり学園の、まさに指針となる事業であります。

4つの小学校の再編により、子どもたちは、1つの学校で、より多くの友人や先生方、あるいは地域の方々と新たな関係を築き、多様な人間関係の中でより多くのことを学ぶことができます。

一方で、この再編により、三輪、塩田、東荷地域の皆様にとっては、小学校までの距離が遠くなることとなります。その中で、我々はこの物理的な距離が、心の距離に影響を与えることがないように心掛けていく必要があります。

地域にとって、学校は単なる建物ではなく、地域づくりの拠点であり、人々がつながり、協力し合う場所であります。新たな小学校が、物理的な距離を越えて、大和地域全体との結びつきを一層深め、子供たちが心豊かに成長できる場として、これからも地域とともに歩み続けることが、本市が誇る教育理念、「連携と協働で育む 光の教育」の本質であると同時に、子どもたち、そして地域の皆様が心より望まれていることなのだと私は考えております。

「我々は建物を形作り、その後、建物が我々を形作る」。これは、第二次世界大戦でドイツ軍の爆撃により、破壊された国会議事堂の建替えの議論がなされる中、イギリスの政治家

チャーチルが語った言葉であります。

現在、我々は子どもたちの学びを第一義に、子どもたちを含めた地域の皆様や学校関係者など多様な方々のご意見を踏まえ、様々な角度から施設整備や、新たな学園における取組について検討を続けています。これが、チャーチルの言うところの「我々は建物を形作り」であり、この建物を通じて、我々が子どもたちの大きな可能性、未来を創り上げていこうとしているところでもあります。

一方、子どもたちは、こうした様々な想いの詰まった学校で多くの時間を過ごす中で、知識を得、人間性を築き、仲間との交流を深め、自分たちの未来の礎を築いていくこととなります。

同時に、新たな学校は、乳幼児から高齢者まで、世代を超えた地域住民が集い、協力し合い、学校や地域課題の解決、あるいは新たなアイデアの創出など、まさに地域をつなぐ場所として、大きな可能性を秘めており、これが、「建物が我々を形作る」ということとなります。

本日は、本市の小中一貫教育及びやまと学園の今後について、皆さまからたくさんの想い、ご意見をいただきながら、やまと学園を中心とした、子どもたち、そして地域の未来について考えてまいりたいと思います。

本日の会議が本市教育の発展に向けた実りあるものとなりますよう祈念申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 議 事

光市の小中一貫教育の取組と施設一体型小中一貫やまと学園の今後について

内 容：資料、パワーポイントを用いて桑原教育総務課やまと学園推進係長より説明

【質疑、意見等】

(構成員)

小中学校の物理的な距離が離れている現状では、合同学習や交流活動の実施にあたり、教職員が例えばオンラインで打ち合わせをすることなどはありましたか。

(説明員)

子どもたちの直接的な交流を大切にしながら、教員だけの打ち合わせにはICTを活用することもあります。また、例えば参加者が多く、子どもと地域の方が一堂に会することが難しい場合などには、学校の校内に散らばって、各会場をICTで繋ぎオンラインで中継するなど、その時々で最善と考えられる手法を組み合わせています。

(構成員)

今まで、各地域で説明会を開催されており、地域の方の不安など様々なご意見があったと思いますが、そういったご意見に対しては、解決の方法を提示するなどにより、ご理解をいただけているという理解でよろしいでしょうか。

(説明員)

説明会では、地域の方から様々なご意見やご質問をいただきました。その中で、学校は地域の拠点、地域の賑わいの場ではありますが、その学校が集約され、無くなることが、地域の衰退に繋がるのではないかというご意見を多くいただきました。

学校跡地の活用については、今後の地域づくり、まちづくりに関わってくる問題でありますことから、市全体で取り組んで方向性をお示ししたいということでご説明させていただいています。また一定の方向性が決まり次第、地域の方への説明の場を設けたいと考えております。

(構成員)

先程の説明の中で示されたこれまでの取組の中で、小中一貫教育の成果がすごく出ているのだと感じました。

私が知りたいのは、準備委員会において、各小学校区の地域の方が顔を合わせて協議を進める中で、大和の各地域ではなく、1つの大和地域として一体感を感じられるような、当初と比べてそのような変化は感じられるのでしょうか。

(説明員)

準備委員会を立ち上げ、それぞれ4地域の方にご参加いただく中で、それぞれの地区の代表としての想いを語られるという場面は多くありましたが、現在は通学部会、地域部会などそれぞれの部会の中で、大和の子どもたちをどのように見守っていくかというご意見をいただくようになりました。

一方で、それぞれの地域でどう関わっていくのかということは、これから議論を深めていくこととなりますが、委員が仰られたような課題となる部分も見受けられることから、一体感の醸成を図っていきたいと考えています。現状では、盛り上がりの部分と課題の部分が入り混じっているような状況であると認識しております。

(構成員)

大和の地域性として、子どもたちの連携に加え、地域の連携によりまちが活性化していくことも1つのポイントであり、成果であるべきだと考えます。そういった面では、課題も見られるのだと感じました。

現在、各部会で地域の方が顔を合わせて取り組んでおられますが、この取組が終わったとしても、次のステップ、大和のまちづくりに活かしていけたらいいと思いました。

(構成員)

私事ではありますが、2月に転勤となり、まさに中一ギャップでした。全く知らない場所に行く、知らない人と一緒に働くというのは、この歳になっても不安があるということを感じました。それを、小学生の心が育っている段階で体験するということは、我々が感じている以上に子どもたちは繊細であり、不安を感じているのだと思いました。

私からは、光市が目指す施設一体型小中一貫ひかり学園の取組を考えるにあたり、先進地視察として訪問した京都の大原学院の感想とやまと学園についてお話ししたいと思います。

大原学院は少子化が進み、どうやって子どもたちを増やしていくかということ、学校側ではなく、地域の方が主体となって考え、取り組んでいました。いろいろな取組を実践しておられた中で、例えば、学校の中に地域の方が運営する託児所を作り、保育園、幼稚園不足という地域課題を解決するというものがありました。

やまと学園においても、少子化が進む中で、地域との連携、地域の方が当たり前のように学校に集うようになればいいと私は考えています。塩田小学校、東荷小学校では、コミュニティセンターが学校内に併設されたことで、地域との関わり方がどのように変わったのか教えていただきたいと思いますが、大和はコミュニティセンターが既に新設された状況で、学校の中に地域スペースのような場所があれば、4つの地域が1つになるきっかけにもなるのではないのでしょうか。先ほど市長が言われた、建物が我々を形作るというのがヒントになるのですが、地域が学校を育てていくということに取り組んでいますが、学校があることで地域が盛り上がるという視点も持つべきだと思います。

また、教育大綱に掲げる18歳までを見通した次世代型コミュニティ・スクールの進化という面では、現在、小中一貫教育に取り組んでいる中で、高校生を加える、高校生のパワーが必要であり、高校生までの繋がりを意識した取組が必要になってくると思います。

地域との一体感というものが、これからはさらに重要になってくると考えています。

(構成員)

コミュニティセンターが学校に併設されたことによる変化について、何か事例がありますか。

(説明員)

コミュニティセンターが併設された学校では、当然、建物が一体であるため、壁がなく、子どもたちや地域の方が自由に行き来できるようになっています。その結果、日ごろから様々な活動を一緒にしている姿が見られます。展示物を廊下に掲示し、誰でも自由に観覧

できるなど、お互いの相乗効果が様々な場面で感じられています。

(構成員)

私も、併設により変化が見られる面もあると感じている中で、先ほども申しましたが、塩田や東荷の方にとっては、学校までの距離が遠くなるため、地域の文化を定着させるために、学校とコミュニティセンターとの関わり方をどのようにしていくのか、この点は非常に重要なことだと考えています。

また、委員の発言の中にあつた高校生との関わり方について、教育長はどのように考えておられますか。

(構成員)

小学生が中学生の姿を見て憧れの気持ちを抱く、それが小中一貫教育の1つの意義であります。中学生は高校生の姿を見て、同じように憧れの気持ちを抱くわけでもあります。

常時ではありませんが、現在の大和中学校、それから市内の他の中学校でも、例えば、学校で開催される会議に卒業生である高校生が参加し、一緒に企画する、考える、活動するという機会があります。

このような活動も含め、スポット的ではありますが、高校生に参画してもらうということ意識した活動を展開しており、大和中学校でも夏の子ども部会という熟議にも高校生が参加して一緒に活動したという話も聞いています。

これから、このような活動がさらに進んでいくのではないかと考えています。

(構成員)

私の1つの願いですが、今年度、私は附属中学校を含めた6校の中学生、そして光高校と聖光高校の高校生と、まちづくりについて話しました。もったいないと感じたのが、中学生と高校生が一緒になってまちづくりについて話し合う機会がなかったので、将来的には、是非、そのような話し合いができたらいと思っています。

(構成員)

子どもたちの意識調査の結果を見てみると、合同学習と中学校体験登校に関する意見で、一人ぼっちにならないというものがあり、とても胸にずしんとくる言葉だと感じました。どのくらいの学年で、どのくらいの規模の学校に通っておられる子の発言なののでしょうか。

また、こういった意見もあって、4小の再編が急がれているのだと思いますが、子どもたちの再編への期待を感じられるようなものがあれば教えてください。

(説明員)

この回答は、4つの小学校の中でも小規模校に通う児童たちからのものです。どうしても、そういった不安をいつも抱えて、少ない友達の中で頑張っている子どもたちがいるというのは事実であり、この度の再編には、子どもたちも大きな期待を寄せていて、実際に合同学習を体験してみて、良かった、不安が少し軽減され、令和7年度に向かって進んでいける状態になっているのではないかと考えています。

子どもたちの育ちにとって、協働的な学びというものは非常に大切な要素なのだとということ、実感しているところです。

(構成員)

これまで様々な先進地視察の機会をいただき、小中一貫校の良い面を体験してきたわけですが、光市において施設一体型の小中一貫校が実現することは本当にうれしく思います。

やはり、私が一番感じたこととして、冒頭の説明にもありましたが、子どもたちの中一ギャップや成長に伴う自己肯定感の低下などに対し、小中一貫教育の推進により、子どもたちは自己肯定感が非常に高いというアンケート結果が見られました。その要因としては、やはり下の年齢の子どもたちを思いやる心や責任感の芽生えなどが影響しているのかもしれない。

教育を含め、施設一体型小中一貫教育の取組には、様々ないい面があれば中には課題もあるかと思いますが、大和地域に住む者の1人として、岩田、塩田、東荷、三輪それぞれの学校の歴史がある中で、やまと学園としてこれまでの取組をさらに発展させ、地域を巻き込んだ様々なイベントを開催する、そしてそれを全国に発信していくといった、わくわくするやまと学園を創り上げ、光市で子どもを育てたいと思う人が増えるような情報発信ができればいいと思います。

大原学院の話もありましたが、あちらは新しく家を建てるのが禁止されている地域で、大原学院に通うには、空き家を探すしかない状況にあります。現在は空き家待ちが続いているとのことでした。

光市も豊かな自然に囲まれ、子どもを育てるにはとても良い環境に恵まれていると思いますので、本市の取組や環境をしっかりと情報発信し、素晴らしい学園を作りあげていきたいと考えています。

(構成員)

先ほども話にありました大原学院の視察に参加させていただきましたが、少し失礼かもしれませんが、こんな山奥に視察の対象となるような学校があるんだなという思いを持ったのですが、学校自体はすごくほんわかとした温かい印象を受けました。

現在の校長先生、教頭先生、そして地域の方に小中一貫教育の取組や学校ができるまでの過程を熱く語っていただき、大和地域でも様々な話し合いの場が持たれている中で、かわら

版等を活用した情報発信に取り組んでいますが、やはり学校を作り上げていく過程というものがすごく大事なのだと感じました。

たくさんの地域の方に、施設一体型の小中一貫校を作り上げていく過程にご参加いただき、そしてその過程をしっかりと共有することで、素晴らしい学校が生まれてくるのではないかと強く思いました。また、大原学院においては、キーパーソンになる方が何人かいらっしまったようで、そういった方たちをしっかりと巻き込んでいくことも重要だと思っています。

また、視察の際に大原学院から10周年の記念冊子をいただいたのですが、面白い内容がたくさんありました。

例えば、小学校では赤白帽子を使うけど中学校は使わない、筆記用具としては、小学校は鉛筆、中学校はシャーペンというふうに、前期、中期、後期の間で様々なすり合わせが必要となり、まずは小中学校の先生が積極的に交流や意見交換することで、デメリットをメリットとして捉えてやってきたという記載がありました。

ちょっとした意見の食い違いや立場や捉え方の違いがいろいろな場面で起こると思いますが、1つの学校として何を良しとしていくのか話し合っって作り上げていく大切さがあるのだと思います。

(構成員)

現在のやまと学園の取組の中で、先ほどまだまだ課題があるという話がありましたが、私はまずもって、それぞれの地域の方が様々な思いを持ちながら、準備委員会を設置するということにすべての学校から合意をいただき、そして少しずつ歩み寄りながらも、その中でやはりそれぞれの地域の立場や思いがある中で、それでも歩み寄っていただけてここまで来たということに、まず感謝を申し上げたいという思いです。

これまでの取組は、それくらい難しいことであったと同時に、まだまだこれからだということでもあり、1つ1つの課題をどうやってクリアしていくかということになります。

ここまで来ることができたのは、それはまさに子どもたちの学びと育ちを軸に、みんなが何ができるのかということを考えようということの基本にしてきたからだだと思います。それは、子どもたちが私たちを繋いでくれた、地域の皆さんを繋いでくれたということです。

先ほどの意識調査の結果にもありますように、子どもの意識は1つ1つの行事を経るたびに変わり、みんなでチャレンジしていこうという気持ちになってきています。これが非常に重要なことであり、みんなで作り上げていくという機運、盛り上がり、やがて本物の皆が作り上げる学園というものに繋がっていくのだと思います。

連携・協働を基盤とした学校というのは1つのキーワードですが、今まさに、私たちは連携・協働を基盤に取り組んでいかなければならないと思っていますし、学園の在り方というのは、誰かが作ってくれるものではなく、みんなでアイデアを出し合っって作り上げていく、そういうものであり、そういう文化や風土を過程の中で醸成していきたい、そして、やがて

みなさんが思い描く学園というものを作っていくことができるのではないかと考えています。

これからも、地域の皆さんにはいろいろとお力添えをいただきながら、取組を進めていくことになると思いますが、多くの方にご協力いただきながらやっていきたいと考えています。

(構成員)

短い時間ではありましたが、非常に内容の濃い論議ができたのではないかと考えています。

先ほど委員から、大原学院にはキーパーソンがいたというお話がありましたが、私は皆さんから様々な意見を伺う中で、教育長も言われたように、子どもたちが繋いでくれた、これまでのやまと学園の取組のキーパーソンは子どもたちだと思っていますし、これからも子どもたちがキーパーソンなのだという思いを持ちました。

また、委員からは、わくわくしたものを全国に発信し、光市で子どもを育てたいと思う人が増えればいいとの意見がありましたが、私も大和の地価が上がるほど、たくさんの方に大和地域に来ていただきたいという思いを持っております。

本日は、貴重なご意見やご感想を本当にありがとうございました。

午後2時30分終了